持続可能な露地野菜経営体の育成

県西農林事務所結城地域農業改良普及センター

結城市・八千代町は葉菜類を中心とした大規模露地野菜経営体が多い地域です。葉菜類は年々価格変動が激しくなる傾向がありますが、その中でもしっかりと自信をもって続けられる持続可能な経営体を育成するため、葉菜類の新たな販路の拡大や安全・安心かつ付加価値のあるGAP認証の取得支援、経営リスク分散のための価格安定を目指した新規品目の導入支援に取り組んでいます。

白菜の新販路は海を越えて

出荷組合「結菜（ゆうさい）」は、結城市内の若手農業後継者５名が結成した組織で、白菜を中心にトウモロコシ等を生産及び販売しています。「結菜」は令和２年11月より香港・シンガポール・マレーシアの現地日系量販店向けに「白菜」の輸出を開始し、さらに令和３年はマカオ・タイへと販路を順調に増やしています。

普及センターでは栽培試験・品種提案を行い、輸出に耐える品質の白菜づくりを支援しています。

写真１ 結菜メンバー

付加価値は信頼・安心。GAP導入支援

安全・安心な農産物生産を目的に、GAP取組支援を長期的に行っています。

10年を超える取組であるJA北つくば農協部会全部会での基礎的なGAPの取組の支援に加え、令和３年は実需者ニーズが高まりつつあるJGAP認証の取得を目指した講習会を開催しました。

その結果、JGAP認証の取得希望者も増加し、令和３年は認証取得に向けて12件・17名の個別支援を行い、うち２名がJGAP認証を取得しました。

写真２（左）
JGAP導入講習会

写真３（右）
JGAP認証取得支援
（施設内改善指導）

肥沃地でのカンショ導入チャレンジ

葉菜類と比較して価格が安定しているカンショについて、八千代町の葉菜類経営体の経営品目の一つとして導入できないかと考え、JA常総ひかり、JA全農いばらきとともに試験栽培を行いました。肥沃地での栽培であるため、綿密な土壌診断を基に試験を設計し、本地区における適品種・適正施肥量を検討しました。

調査結果については、11月に行われたカンショ栽培講習会において関係機関で共有しました。試験栽培は今後も継続して行い、良品質カンショ産地の育成につなげていく予定です。

写真４（左）
試験栽培ほ場の収穫状況

写真５（右）
試験栽培ほ場掘り取り調査の様子